

防災・減災のページ

巡回ワークショップ @大崎・古川

むすび塾



この高さまで水が満ちました。児童たちに昨年9月の宮城豪雨の状況を説明する千坂さん(左端) 大崎市古川矢目

危険な場所 歩いて実感

水害教訓にマップ作製

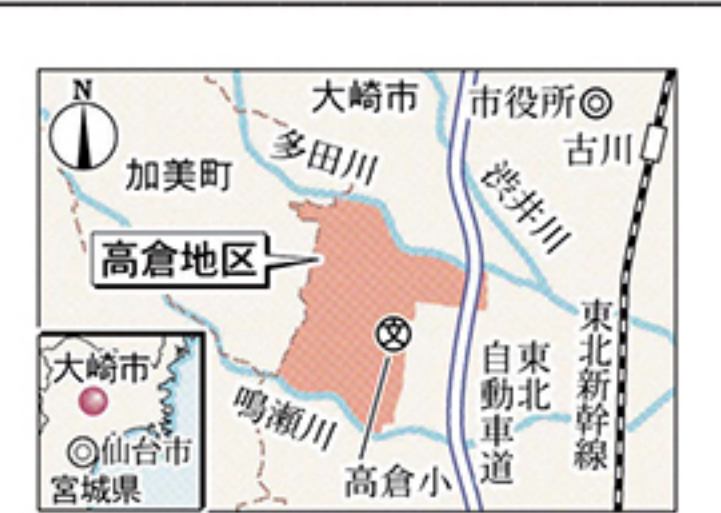
東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社は9月28日、通算59回目の防災ワークショップ「むすび塾」を大崎市古川の高倉小学区で開いた。同校の5、6年生16人が、昨年9月10日夜から11日未明にかけて起きた宮城豪雨で冠水した場所などを巡回。被害状況や対策の現状を書き込んだ地域の防災マップを作り、水害への心構えを新たにしました。



マップづくりに取り組む子どもたち。現地を見たこと、聞いたことを書き込み、写真を貼って仕上げた大崎市古川の高倉小学区

水が来た」と説明。千坂さんは「田んぼは1・8メートル浸水した」と話した。当時、自宅が孤立し、ヘリコプターで救助された北谷地区の6年伊藤夢羽さん(11)は地元を歩き、「大人になったら防災に取り組みたい」と決意を述べた。同地区は全世帯に黄色い旗を配り、安否確認に活用している。細川春次区長(63)は「災害時はまず自分の命を守ること、その次に近所の助け合いが大事だと」

新田地区の尾崎幸子さん(61)は水害対策として懐中電灯や食料を準備していると紹介。堤根地区では、橋本日出雄区長(67)の案内で子どもたちが用水路や防災無線の位置を確認した。学校に戻った児童らは、大型地図に住民の証言を記入したり現場写真を貼ったりして、水害の危険性を分りやすく示した。水害時の対応を問うクイズもあり、命を守る避難の在り方について理解を深めた。



宮城豪雨で浸水被害

高倉地区は大崎市古川南部に広がる南北4キロ、東西3キロの田園集落。約3500世帯、約1200人が住む。南に鳴瀬川、北に支流の波井川や多田川などが流れ、大雨が降ると増水しやすい地勢にある。

むすび塾&ぼうさい探検隊 大崎・高倉小学区

住民に聞いた昨年9月の豪雨の状況

- 1班 多田川 名蓋川
- 2班 夜中の豪雨だったから、近所の安否確認に苦労したよ
- 3班 鳴瀬川の水位が上がって心配だったわ。道路の通行止めが続いて困ったのよ
- 4班 浪井川

家ごとに黄色い旗を掲げて安否を確認したよ

費の上約50cmまで浸水したんだ

イラスト 東海林伸吾

日本損害保険協会の「ぼうさい探検隊」

「ぼうさい探検隊」は日本損害保険協会が2004年に始めた事業。小学生らのグループで地域を歩き、防災・防犯や交通安全に役立つ施設や危険箇所の位置を調べ、マップにまとめる。マップコンクールを年1回実施し、全国から作品を募り優秀作を表彰。探検隊の活動マニュアルも用意し、必要な文具キットを無償提供している。河北新報社は損保協会の協賛を得て年数回、むすび塾に探検隊のノウハウを取り入れて開いている。ぼうさい探検隊の詳細は協会のウェブサイトに掲載。連絡先は損保協会啓発・教育グループ03(3255)1215。



(写真左から) 6年相澤華成さん(12)、6年佐藤侑奈さん(11)、5年澤田龍斗君(11)、5年橋本青空さん(11)



(写真左から) 6年伊藤夢羽さん(11)、5年伊藤陽理さん(10)、5年高橋菜瑠さん(10)、5年遊佐光貴君(10)



(写真左から) 6年阿部世風君(12)、6年阿部日和さん(11)、5年菅原佑亮君(11)、5年渡辺陽成君(10)



(写真左から) 6年武田いろはさん(12)、6年檜野空輝君(12)、6年福地京介君(12)、5年染谷圭太君(11)

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は巡回ワークショップ「むすび塾」を2012年5月に始めました。毎月1回、町内会や学校、職場などで開いています。名称には、人と人、地域と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けたいとの思いを込めました。次回は18日、仙台市宮城野区で実施します。随時、むすび塾の開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室022(21)1591。

大崎・古川

減災・復興支援機構理事長 木村 拓郎さん



状況次第 2階も逃げ場

予想外のことが起きるの。既に水が来ている、雨が降り、外が暗いといった状況では、一時的に家の2階など「近くの高い所に逃げよう。自分の住む自治体の外に避難しても構わない。大切なものを2階に上げておくことも備えになる。後片付けに必要なマスクや長靴も2階に用意しておけば、早めに取り組みることができる。

専門家から

大雨にもかかわらず、川や側溝が見えにくい所があった。暗くても道路の際が分かるように、ソーラーライトを設置するなどの工夫が必要だろう。避難する際、雨が激しく足元が見えず、用水路に転落した事例もある。いつ避難するか判断は難しいが、雨が強くなる前に避難するように心掛けること。今回歩いた地区には、ガードレールがなく、用水路

雨が強くなる前に避難



減災・復興支援機構専務理事 宮下 加奈さん